四谷の
千枚田だより
第263号

第十四回 中部環境先進五市サミット.in新城

と き 令和七年七月十一日(金)
ところ 新城地域文化広場

中部地方において環境政策を積極的に展開する五市、多治見(T)、安城(A)、新城(S)、掛川(K)、飯田(I)が連携し、平成二十二年から開催しているサミットが、愛知県新城市において開催された。

平成二十二年に安城市へ五市の市長が集まり、第一回中部環境先進五市(TASKI)サミットが開催されたのを皮切りに、災害時における総合公益に関する協定の締結や、各市の環境活動団体同士が情報交換を行う市民交流会の実施、環境省への政策提言書の提出など、毎年テーマに沿った活動を行いながら、五市の環境活動のタスキを繋いでいる。

今回で第十四回目を迎えるサミットでは、各市市民団体も参加し、「市民に示す環境未来」をテーマに、各市の環境基本計画等に基づく政策発表や情報交換などが行われた。

サミットでは、大西康史氏の地域の未利用間伐材を活用した「新城市・湯谷温泉木質バイオマス熱利用事業」と題した基調講演の後、各市市長が発表や意見交換を行った。

◇各市首長の取組み紹介(事例)では新城市下江洋行市長は2023年からサーキュラーエコノミー(循環型経済)促進に力を入れ、市職員が未利用食品の活用などを試行していると紹介。今後、民間企業と協力して廃油活用、牧場からのアンモニア回収にも挑戦すると述べた。掛川市の久保田崇市長は、紙おむつを燃料に再利用の取り組みなどを例示。同市は、すでに市民1人当たりのごみ排出量が国内最少(全国で二番目にゴミが少ない自治体)に近い水準だが、「あえて高い目標を立てており、ゼロ・ウエイスト(排出ゼロ)を目指す」と興味ある発言があった。

時期開催地飯田市へタスキ渡し

最後に、五市がこれまで引き継いできた「タスキ」を来年度の第十五回サミット開催予定の飯田市長が受け取り、次回開催市としての挨拶を行った。

午後の市民交流会(現地視察)は鳳来寺山自然科学博物館「新城市の自然について展示による説明」と横浜ゴム新城工場「地元企業による地域環境保全事業の紹介」があった。

現地視察ではバス移動の合間に自然界のスペシャリスト小椋さんと小山が自然、環境等多様性に富んだ新城市(奥三河)の紹介や地元企業「横浜ゴムの環境保全活動と四谷の千枚田との繋がり」等を生の声で説明、参加者から大変喜ばれた。

余談ではあるが、小椋さんから小山は数少ない内閣府地域活性化伝道師であり、その役割の説明を求められ、参加者に紹介、大きな興味を戴いた。

回想 何もかも九月

○平成三年九月 四谷の千枚田保存活動始動(五十歳の誕生日) かつては、千二百九十六枚あった棚田が三百六十枚までに減少、地域の宝として保存継承を開始、平成八年には四百二十枚までに回復(復田)。

○平成十五年九月 「四谷の千枚田だより」発行 輪島のサミットに於いて当地のサミット開催を打診されたのを契機に、アクションとして地域の情報紙とした「四谷の千枚田だより」を発行。現在二百六十三号を継続発行。

○平成十七年九月 第十一回全国棚田(千枚田)サミット開催。この開催には愛知万博、鳳来町最後の一大イベントを視野に、全国から棚田関係者千三百人余りの参加を得て開催。十月、新市新城市に統合合併。鳳来町最終の華を掲げた。

○平成二十七年、全国棚田(千枚田)サミット開催十周年記念イベントを地域ぐるみで開催。地域の絆を確かめた。

…来月がサミット開催二十周年、新城市制二十周年の節目を迎える。

猛暑列島　北陸も四十度超え

八月五日、中日新聞引用

危険な暑さが続く中、四日も高気圧が日本列島を覆い、全国各地で気温が上昇した。石川県小松市で四十・三度を観測するなど、各地で最高気温四十度を超える日が続いている。気象庁によると四十度以上を観測した日は今年五回目。七月三十日から八月二日は四日連続で記録し、過去最長に並んだ。中部地方では一日に三重県桑名市で観測史上一位の四十・四度となった。

今(五日夕方)、千枚田だより編集中にニュースで関東圏で軒並み四十度を超し、群馬県で四十一・三度の記録的猛暑が報じられた。

・命に係わる危険な暑さ
・経験したことのない暑さ
・熱中症警戒アラート

最高気温40度以上を観測した日と最高地点

7月30日	41.2度	兵庫県丹波市
31日	40.4度	岡山県高梁市
8月1日	40.4度	三重県桑名市
2日	40.1度	群馬県伊勢崎市
4日	40.3度	石川県小松市

因みに、四谷の千枚田周辺ではゴキブリを目視したのは昭和四十年半ば、熱帯夜は同五十年半ばまでは都会でなければ味わえないものと思っていたが、今ではこの地でもクーラーは当たり前のものとなってしまった。確かに世界的な気温上昇は顕著である。

稔りの秋

八月中旬、今のところ千枚田の稲作は順調に推移している。

田植え前の代掻き当時は渇水で水騒動の勃発が危惧されたが、天の恵みで無事田植えを終えることができた。その後の水不足もなく、中干、稲の授精、開花期も天候に恵まれ、例年以上に順調であった。また、気候変動で高気温が続き、茹だるような暑さで害虫の発生も少なく思える。今のところ、ここ数年来の豊作(今年は、畝取りは間違いない、と喜びの声も聞こえる)が期待できる。

が…棚田の百姓は害獣被害、台風による倒伏、刈り入れ時の長雨等々、心配事は絶えない。(八月五日現在)

盆　行　事(身平橋を事例に…)

市指定無形民俗文化財「念仏踊り」

「お施餓鬼」(寺施餓鬼)

盆月の八月五日、ご祖先様、初盆の供養を行うのと同時に、餓鬼(「餓鬼道」に堕ちて飢えや乾きに苦しんでいる魂や無縁仏)と一緒に供養する行事で生前に徳を積む事により、自分にも救いがあるという法要で、檀家衆は僧侶の読経のあと、施食会が習わしであったが、新型コロナウイルス感染症以降は中止となった。

僧侶は寺施餓鬼を終え、檀家を廻って先祖の供養、家施餓鬼も同時に行う。

「迎え松明」

八月十三日の夕方に軒先(上坂)で松明を焚き、戻ってくる先祖の霊が迷わないように、目印として松明を焚くお盆の風習である。

「念仏踊り」

今年は、十四日に海源寺で本尊様の念仏、はねこみ、手踊りを行う。

初盆宅では組単位で松明灯しを行う。

「送り松明」

八月十六日の夕方、お盆に一緒に過ごした先祖の霊を送り出す風習である。

「堂施餓鬼・風まつり」

盆の十六日に海源寺で行うと同時に風まつりも行う。(風まつり=嵐を鎮めるための農耕儀礼。収穫前の農作物が被害に遭わないよう祈願する。五穀豊穣、家内安全の願いを託し、竹竿の先に藁を束ね、紙垂(しで)を飾る。

物故者追悼式

連谷明朗クラブは十七日、故人の冥福を祈る「物故者追悼法要」を連谷公民館で十一時から催す。

【新城市老人クラブ連合会は令和七年三月三十一日付けで廃止となった。連合会は、新城市、鳳来町、作手村との市町村合併当初は百四クラブ、五千八百二十四人の会員数であったが、会員の減少は食い止めれなく、現在は数クラブのみとなってしまった。連谷明朗クラブは希少な存在である。】

稲刈りシーズン

四谷の千枚田では九月初めから稲刈りが始まり、中下旬まで続く。段々田んぼの稲稲架は季節の風物詩でもある。

発　行　令和七年八月十五日
鞍掛山麓千枚田保存会
文　責　小山舜二